

キャリアシネット

第2号

令和6年9月13日
富山県立富山総合支援学校
進路指導部

「高等部における進路指導の取組について」

高等部主任 脊戸 英樹

高等部では、卒業後の進路決定のために、様々な進路指導を実施しています。

今年度は、新たに1年生の6月に就労希望者を対象に校内就業体験を実施しました。また、3年生の校外学習ではハローワーク研修を行ったり、夏季休業中の登校日には職業講話を実施したりしました。この後も、11月には特別支援学校就労支援セミナー、進路決定後には障害者就業・生活支援センター登録のための就業支援ワーカーとの面談、移行支援会議も予定されています。

進路決定には、就業体験・生活体験が大きく関わってきます。体験先については、本人及び保護者の方の希望を基に、進路指導主事を中心に、担任や学年主任と一緒に検討し、決めています。

就業体験では、本人の希望や適性の他、体験先での受入れ体制、通勤が可能かを、体験を通して確認しています。就労するためには、一人で通勤できる力、健康管理を含めた基本的な生活習慣の確立、働くことに堪えることのできる体力、役割を果たし責任感をもつこと、必要なコミュニケーションがとれる力が不可欠であり、その上で、与えられた場で真面目に働くことが求められます。これらの力は、就業体験の時期に限らず、ふだんから少しずつ、学校生活でも、家庭生活でも、心掛けて積み重ねていくことが大切です。

また、福祉事業所での生活体験は、本人が卒業後どのような場所で、どのように過ごしたいかを想定して体験先を選びます。本人が自分らしく自立して生き生きと過ごせる場所を学校と家庭と一緒に考えることが大切です。

生徒の自立と社会参加を目指し、よりよい進路選択・決定につなげるため、学校と家庭が連携し、協力して支援することが重要になります。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

高等部就業体験・生活体験

☆就業体験・生活体験を行いました。

高等部2年生 就業体験・生活体験先 (6月10日～6月21日)

<企業等>

- ・中部薬品株式会社 v・drug 五福店
- ・株式会社メフォス
- ・北陸電力ウィズスマイル株式会社
- ・特別養護老人ホームあしたねの森
- ・特別養護老人ホームふなはし荘
- ・株式会社平和堂アルプラザ富山
- ・SBSゼンツウ株式会社
- ・富山いすゞ自動車株式会社
- ・小林製薬チャレンジド株式会社
- ・朝日印刷ビジネスサポート株式会社
- ・昭和パックス株式会社 富山工場
- ・株式会社不二越

<就労継続支援事業所>

- ・就労移行支援事業所 ヴィストキャリア富山駅前
- ・就労継続支援B型事業所 ヴィストジョブズ富山駅前

高等部3年生 就業体験・生活体験先 (6月3日～6月21日)

<企業等>

- ・ウエルシア富山 立山店
- ・株式会社ハウステック 富山工場
- ・株式会社大阪屋ショップ 新庄店
- ・第一繊維工業有限会社
- ・株式会社宮本工業所 黒部工場
- ・株式会社魚国総本社 北陸支社
- ・特定非営利活動法人 大きな手小さな手

<就労継続支援事業所>

- ・就労継続支援A型事業所ほまれの家 立山店
- ・就労継続支援B型事業所 ジョブステーションさくら長江事業所
- ・就労継続支援B型事業所 る・ふっくらん
- ・就労継続支援B型事業所 えみふる
- ・就労継続支援B型事業所 フレンドリーハウス

<生活介護事業所>

- ・社会福祉法人 富山県総合福祉センター 高志ライフケアホーム
- ・志貴野ホーム障害者福祉センター
- ・つくしの家



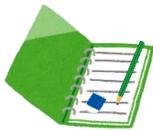
体験生徒の感想・保護者アンケートより

大事なことはメモに取ることが大切だと思いました。気になることがあっても気持ちを切り替えて、笑顔で人と接し、元気を出して一生懸命仕事することが大切だと思いました。(就業体験・生徒)

2年の頃より一層がんばらなければならないという強い気持ちが感じられ、体験ノートからも、一生懸命指示された作業を行っていたように感じました。3週間、その気持ちが途切れることなく常に意欲的だったように思います。(就業体験・保護者)

製品の成型、検品のやり方をよく見て、正確にできるよう頑張りました。困ったときは自分から相談するようにしたいと思います。(就業体験・生徒)

食事面では、とろみの固さ、食事・水分の飲み込みに気を配りました。緊張もあったようですが、楽しんで体験したと思います。(生活体験・保護者)



仕事を体験することで、商品の扱い方や挨拶の大切さに気付くことができました。誰にでも大きな声で挨拶ができるように、学校でも意識していきたいです。(就業体験・生徒)

体験中は、体調を崩さないようになるべく普段のルーティーンに近い生活時間を過ごせるように見守りました。帰宅時は上手くいかなかったことを話してくれたので、どうしたら解決するか話し合いました。ストレス解消のために好きなことをする時間も大事にしました。(就業体験・保護者)

長時間働くことの大変さや長時間集中力を維持させることの必要に気付きました。働く体力や集中力を身に付けたいです。(就業体験・生徒)



各学部の取組



小学部 ～仕事体験より～

小学部6年生の児童が、キャリア教育の一環として、富山市恵光学園やまちなかハウスぽっけ、キッズルームレモンで仕事体験を行いました。タオル干しや仕分け作業、シュレッター掛け、ごみ捨てなどそれぞれの児童に合った作業を行いました。どの児童も集中して仕事を行うことができ、達成感を感じられる体験となりました。

中学部 ～夏休みの生活より～

なかたに印刷に会社見学に行ってきました。この会社では、SDGsの目標を達成するために、いろいろな取組をしていることが分かり、勉強になりました。
(中学部2年 生徒)

高等部の体験学習会に参加しました。少し緊張ぎみでしたが、高等部の授業を体験し、よい刺激になったようです。
(保護者)

一日に一回は、家の手伝いをしました。朝起きて新聞を取りに行く、食後に食器を片付ける、玄関をほうきではくなど、自分にできることを頑張りました。
(中学部2年 生徒)



高等部 ～職業講話「先輩に学ぶ」～

8月1日に、高等部の就労希望生徒と保護者を対象に、就労している卒業生3名から、現在の仕事内容や通勤方法、在学中にしておけばよいことなどの話を聞きました。その一部を紹介します。

- ・ミスしたときは、報告や相談をし、どう気を付けるかをメモ帳に書いています。
- ・どんな作業も最初から無理だと決めつけずに、挑戦していくことや、自分で次の作業を探すことなどを教えてもらいました。
- ・相手の顔を見て自分から挨拶しています。
- ・機械の使い方や言葉遣い、間違えないように確認することなどに気を付けています。
- ・夢や目標をもって挑戦する気持ちを忘れないようにしています。
- ・作業学習、特にオフィスサービスの授業は、会社に入ってからとても役立つと感じています。



在校生は、自分の就業体験を思い起こし、将来の仕事に必要なことを卒業生から学ぼうと、積極的に質問していました。良い学びの時間となりました。

第1回インターンシップ推進委員会報告

インターンシップ推進委員会を開催しました。

日時：7月16日（火） 10:00～11:30

委員・富山公共職業安定所 就職促進指導官

- ・富山障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー
- ・朝日印刷ビジネスサポート株式会社 管理部 部長
- ・社会福祉法人アルペン会 多機能型就労支援事業所
ワークハーバーMUROYA サービス管理責任者
- ・特別支援学校地域就労支援アドバイザー
- ・学校関係者（PTA代表）

協議内容：令和6年度事業計画について

令和5年度卒業生の進路先について

令和6年度高等部3年生・2年生の就業体験について 他



それぞれの立場から、企業が採用したい人材や障害者雇用に関する企業のニーズなどについてのご意見を伺いました。

○企業が採用したい人材について

- ・この会社で働きたいという気持ちをもっている人は一緒に働きたいと思う。
- ・大きな声ではっきりと返事ができる人。
- ・分からないのに返事をするのは困る。分からないことを聞けることが大切である。
- ・休まず真面目に働く人は印象がよい。

○分からないことが分からなくて質問できない人への対応について

- ・何に困っているのか、何に配慮が必要なのか（環境整備等）を探る。
- ・支援者が、一緒に作業しながら本人の話を掘り下げて、どこが分からないか確認する。

○障害者雇用に関する企業のニーズについて

- ・障害者を雇用したいと思っている企業には、雇用率の引き上げや、高齢化、障害の有無に関係なく仕事のできる人がほしいなどの理由はあるが、初めて障害者を雇用する企業は、何の仕事ができるのか、何を支援したらよいか分からない企業が圧倒的に多い。
- ・障害者を雇用する際、仕事をするときの姿勢や態度が重要視される。他にも、明るく元気、時間を守る、素直で真面目、健康で清潔などということも大切なことである。会社のニーズを把握し、生徒に働く意欲を育てられるよう取り組んでいくことが大切である。

これらの意見を参考に、家庭と協力して、働くために必要な力を育てていきたいと思います。

次回は令和7年1月17日（金）の予定です。児童生徒の自立と社会参加の推進を目的に、今後も関係機関と連携して、就労支援の充実を図っていききたいと思います。